

「多様性の共存こそ、理想の社会」

精神病体験者の笑顔が表紙を飾る COMHBO

看護職 平川 ひかり

相模原での事件をはじめ、「精神疾患」や「精神科に通っている患者さん」と聞いて一般的にイメージされるものは、まだまだ暗くマイナスなものが多いのではないかと勝手に推測してしまいます。

それはとても悲しいことです。

授業の冒頭でお話ししてくださった抗精神病薬ゼプリオンの件は、恥ずかしながら初めて耳にする衝撃的な事実でした。数年前の子宮頸がんワクチンはあるにも連日メディア・新聞各社で取り上げられていたにもかかわらず、85人もの生命が亡くなっているゼプリオンには新聞2社のベタ記事のみとは。

先生がお話された「ゼプリオンも相模原にも、自分には関係のない誰かの話、というのがあるのかな」という言葉が印象的でした。

まさにそうなのだと思います。

今回のお話、精神科医療における「見える化」は、今まさに私が知りたいと思っていることでした。何故ならば、病名は伏せたいのですが、私自身が、精神科医療のお世話になっているからです。

以前受診した数カ所の医院では、申し訳無いのですが信頼できると感じられず、インターネットの口コミサイトを見ては、どこになら私のこの状態を理解してくれる医師がいるのだろうか、と悩んだ記憶があります。

治療における評価・目標の共有も然りです。

島田先生のお話を聞いて COMHBO という存在を知ることができたことで、システムが構築されているのだと分かり、心がホッとしました。そして、五体満足だけが普通、当たり前ではなく、身体も精神も知性も様々な能力も、多様性のある人間が共存して、皆が笑顔で生活できる社会を目指し、いずれ、私も自分の経験を踏まえた研究や小さな社会貢献ができればいいなと細々考えております。島田先生、本当にありがとうございました。